誌上講座

ICTを活用した ダクタイル鉄管管路の施工管理

1．はじめに

ダクタイル鉄管は、強靭な管体と優れた継手性能により、地震や津波、台風や豪雨などの災害に対してその有効性を高く評価されているが、優れた性能を管路として発揮させるためには、正しく施工することが重要である。そのため、本鉄管協会として、水道管路工事の施工管理レベル維持・向上と、管路工事に関する業務の生産性向上のための一方策として、ダクタイル鉄管管路の施工管理にICTを活用したシステム（以下、「施工管理システム」という。）を導入することを推奨することとした。今回、施工管理システムをダクタイル鉄管の施工管理に活用する場合の基本事項を紹介する。

2．施工管理システムの特徴

施工管理システムは、水道管路工事の現場において、施工情報を携帯端末に網羅的に入力しクラウドサーバーに格納することで、必要な施工管理書類等を自動的に作成するものである。施工管理システムの構成概要を図1に示す。

施工現場において、工事事業者が携帯端末

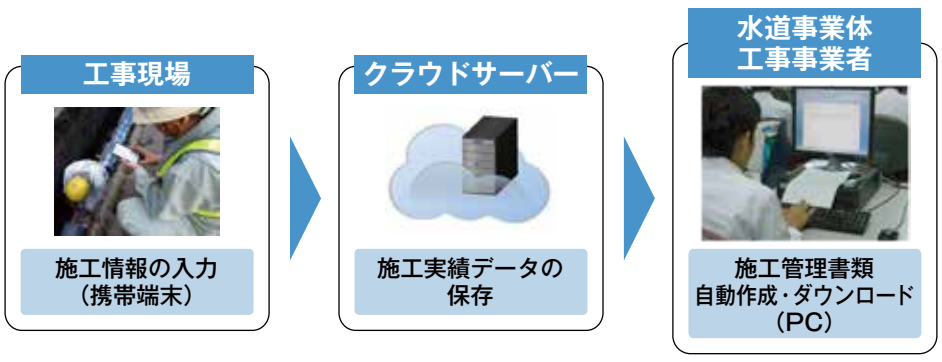


図1　施工管理システムの構成概要

上のアプリケーションに当協会発行の接合要領書に定められた手順に従った継手チェック項目等の施工情報を入力する。入力情報をクラウドサーバーに送信することにより、継手チェックシート等の施工管理書類が自動的に作成される。作成された書類は、専用のwebサイトから工事事業者が出力可能である。

また、発注者である水道事業体は、作成された施工管理書類をwebサイトから閲覧することができるため、工事の日々の進捗状況を管理することが可能である。

3．施工管理システムの使用方法

3．1　入力手順

本システムに入力できる管材料及び付属品は、システムが適用する継手の種類ごとに、当協会が発行する便覧に掲載されたものである。ただし、GX形短管1号、短管2号や、当協会の会員以外が供給する付属品等、実際の管路工事において使用頻度が高い材料についても入力可能としている。携帯端末アプリケーションへの入力手順を以下に示す。

①工事名称、工事日等の基本情報を入力する。

②当該工事日に配管予定の配管図を作成し、管番号や継手番号を付与する。

③管の接合時に、継手ごとに接合チェック結果を入力する。

④接合後の継手を写真撮影する。

3．2　施工管理書類の作成方法

クラウドサーバーに蓄積した施工情報を利用して、以下の施工管理書類が自動的に作成される。

・継手チェックシート
・工事日報
・実績管割図（各日及び工事全体）
・材料集計表

作成された施工管理書類は、専用のwebサイトからダウンロードが可能である。

【基本情報入力】　【配管図作成】　【接合チェック入力】　【写真撮影】

図２　携帯端末アプリケーションへの入力手順と表示例

3.3　作成される施工管理書類例

工事現場で携帯端末に入力した施工情報に基づき施工管理書類が自動で作成されるため、工事事業者による書類作成業務の効率化につながる。更に、従来行われている、工事現場でメモ書きをして工事後にPCで清書する作業における転記ミス等の不具合防止も図られ、施工管理書類の信頼性向上が期待できる。以下に本システムにより自動作成される施工管理書類例を示す。

（1）継手チェックシート

施工管理システムに入力した継手チェック結果に基づき、当協会が定める様式に準拠した継手チェックシートが作成される。そのため、チェックの漏れや清書時の転記ミスがなくなり、書類の信頼性向上に寄与する。

更に、接合後に撮影した継手写真が、撮影時刻等の情報とともに一覧表示される。これにより、施工管理レベルの向上や、管路供用後の維持管理のためのデータとしても活用可能となる。

（2）工事日報

施工管理システムに入力した施工情報に基づき、工事日報が作成される。そのため、使用材料を取りまとめる等の作業がなくなり、業務の効率化や材料集計結果の信頼性向上に

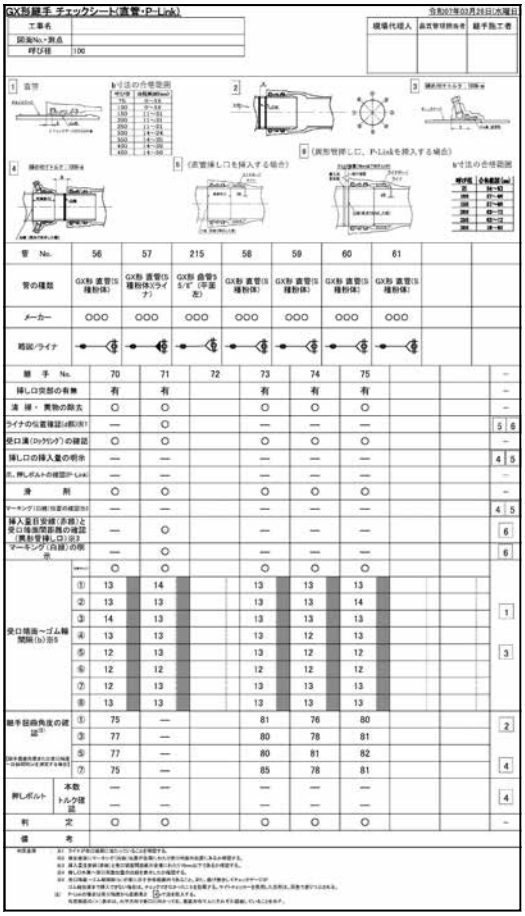


図３　直管の継手チェックシート（GX形）の例

つながる。

なお、作成される工事日報の様式は、全国の代表的な水道事業体が定める様式を調査し、記載が必要であると考えた項目を配置した。

（3）管割図

施工管理システムに登録した配管図に基づき、各工事日の管割図、及び該当工事全体の管割図がDXF形式で作成される。これにより、工事現場での設計変更等により配管計画と実績とが異なる場合でも、実績を反映した正確な管割図が専用のwebサイトからダウンロード可能となる。

（4）材料集計表

施工管理システムに入力した管材情報に基づき、工事に使用した材料集計表が作成される。これにより、材料集計の正確化及び修正作業の効率化が図られる。

工事日報

No.
契約番号
工事日 2023-06-07
天候 曇り
気温 ℃
その他

現場代理人	品質管理担当者	主任技術者	

監督員

工事名	工事現場	工期（残日数）	受注者名		
デモ用工事	自： 至：	自：20230605 至：20230731 （残日数：54）	現場代理人 主任技術者		TEL TEL

工事内容

工種	名称	呼び径	設計延長	累計延長（前日まで）	当日延長	累計延長（当日まで）	単位	出来高（%）	摘要
管布設	GX形	φ100	-	28.778	20.389	49.167	m	-	

使用材料詳細

名称	形状寸法	管No.	切管/ライナ	差手No.	挿合	メーカー
GX形 直管（S種粉体）	φ100×4000mm	56		70	挿	○○○
GX形 直管（S種粉体）	φ100×4000mm	57	ライナ	71	挿	○○○
GX形 曲管5 5/8°	φ100	215		72	挿	○○○
GX形 直管（S種粉体）	φ100×4000mm	58		73	挿	○○○
GX形 直管（S種粉体）	φ100×4000mm	59		74	挿	○○○
GX形 直管（S種粉体）	φ100×4000mm	60		75	挿	○○○
GX形 直管（S種粉体）	φ100×4000mm	61				○○○

作業人数

昼

職名	人数	累計人数

夜

職名	人数	累計人数

管材料集計表

名称	形状寸法	挿合形式	数量	単位	摘要
曲管5 5/8°	φ100	GX	1	個	
直管（S種粉体）	φ100×4000mm	GX	5	本	
ライナ	φ100	GX	1	個	

工事集計表

名称	形状寸法	挿合形式	数量	単位	摘要

撤去・移設内訳

名称	形状寸法	数量	単位	摘要

その他

項目	記事	摘要	指示事項

特記事項（職員記入）

図４　工事日報の例

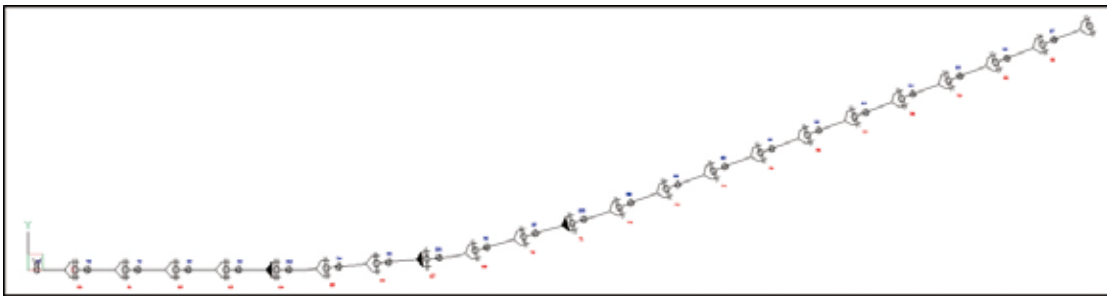


図５　管割図の例

材料集計表				
工事名	デモ用工事			
名称	形状寸法	備考	数量	単位
GX 二受T字管	φ100×φ75		1.0	個
GX 直管(1種粉体)(切管用)	φ100×4000mm	参考数値	2.0	本
GX 帽	φ100		1.0	個
FL 消火栓	φ75		1.0	基
GX 二受T字管	φ100×φ100		2.0	個
GX 受挿しソフト弁(内ねじ式)	φ100		4.0	基
GX 短管1号	φ75		1.0	個
GX 受挿しソフト弁(内ねじ式)	φ75		1.0	基
GX 直管(S種粉体)	φ100×4000mm		6.0	本
GX 挿しロリング	φ75		1.0	個
GX 挿しロリング	φ100		2.0	個
GX ライナ	φ100		8.0	個
GX 接合セット	φ75		2.0	組
GX 接合セット	φ100		7.0	組
フランジ 接合部品(GF1号-10.0K)	φ75		1.0	組

図６　材料集計表の例

4. おわりに

近年、国の施策として、建設業界の生産性向上等を目的に、データとデジタル技術を活用して社会資本や公共サービスを変革する「インフラ分野のDX」が推進されている。施工管理システムが建設業界の一端を担う水道管路工事においても、他の建設工事に遅れをとることなく、ICTやIoT等を活用した業務の効率化に寄与することができれば幸甚である。

JDPA T 100の
資料はこちらから

協会ニュース

2024年度ダクタイル鉄管協会セミナーを開催しました

水道事業に関する最新の情報や先進事業体の事例を紹介するセミナーを毎年開催しており、今年度も下記日程・内容にて全国16会場で開催し、会場で1,510名、オンライン配信においても259団体にご参加いただきました。講演頂いた講師の方々にお礼申し上げます。

2024年度ダクタイル鉄管協会セミナー 一覧表《全16会場》（一部web配信）

支部	開催日・開催場所	講　師	テーマ
北海道	9月5日(木) 札幌市	北海道大学教授 大学院工学研究院 環境工学部門・環境工学分野 石井　一英 氏	カーボンニュートラルと 環境関連施設管理
		名古屋市上下水道局 技術本部計画部 計画部長 渡部　健一 氏	名古屋市上下水道局の地震対策
東北	11月12日(火) 盛岡市 (web 併用)	横浜市水道局 配水部長 小西　孝之 氏	水道料金改定と管路更新
		千葉大学 大学院工学研究院 教授 丸山　喜久 氏	近年の自然災害時における ライフライン施設の機能支障
	11月26日(火) 仙台市	豊中市上下水道局 技術部浄水課 課長 中川　裕義 氏	豊中市における施設整備および維持管理
		東京都立大学 都市環境学部 都市基盤環境学科 准教授 荒井　康裕 氏	水道管路システムの維持管理と IoT や AI 技術の活用
関東	8月5日(月) 新潟市	中央大学 理工学部 人間総合理工学科 教授 山村　寛 氏	GXとDXで創る健全な水循環による 水道の基礎強化
		盛岡市上下水道局 上下水道部 次長 山路　聡 氏	100年先の次世代へ安心して 引き継ぐために ～新時代に不可欠な積極性を鍛える～
	9月19日(木) さいたま市	大阪広域水道企業団 南部水道事業所長 田村　武志 氏	大阪広域水道企業団における 広域化(統合)の取組みについて
		東京都立大学 都市環境学部 特任教授・名誉教授 水道システム研究センター長 小泉　明 氏	水道管路に特化した 産官学共同研究
	11月13日(水) 千葉市	香川県広域水道企業団 計画課 課長補佐 遠藤　智義 氏	香川県広域水道企業団における 広域連携の取組みについて
		東京都立大学 都市環境学部 都市基盤環境学科 准教授 荒井　康裕 氏	水道管路システムの維持管理と IoT や AI 技術の活用

札幌会場（９月５日開催）会場 68 名が参加

北海道大学教授 大学院工学研究院 環境工学部門・環境工学分野
石井　一英 氏

名古屋市上下水道局 技術本部計画部 計画部長
渡部　健一 氏

会場風景

盛岡会場（11月12 日開催）会場 34 名、オンライン配信で 31団体が参加

横浜市水道局 配水部長
小西　孝之 氏

千葉大学 大学院工学研究院 教授
丸山　喜久 氏

会場風景

仙台会場（11月 26 日開催）会場 43 名が参加

豊中市上下水道局 技術部浄水課 課長
中川　裕義 氏

東京都立大学 都市環境学部 都市基盤環境学科 准教授
荒井　康裕 氏

会場風景

新潟会場（８月５日開催）会場 78 名が参加

中央大学 理工学部 人間総合理工学科 教授
山村　寛 氏

盛岡市上下水道局 上下水道部 次長
山路　聡 氏

会場風景

さいたま会場（９月19 日開催）会場 100 名が参加

大阪広域水道企業団 南部水道事業所長
田村　武志 氏

東京都立大学 都市環境学部 特任教授・名誉教授
小泉　明 氏

会場風景

千葉会場（11月13 日開催）会場 146 名が参加

香川県広域水道企業団 計画課 課長補佐
遠藤　智義 氏

東京都立大学 都市環境学部 都市基盤環境学科 准教授
荒井　康裕 氏

会場風景

協会ニュース

2024年度ダクタイル鉄管協会セミナー 一覧表《全16会場》（一部web配信）

支部	開催日・開催場所	講　師	テーマ
関東	12月6日(金) 横浜市	山梨県富士山科学研究所 所長 藤井　敏嗣 氏	富士山噴火に備える
		兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 教授 阪本　真由美 氏	火山との共生をめざして ー災害時の自助・共助・公助
	1月23日(木) 静岡市	埼玉県企業局 水道企画課 副課長 片岡　広成 氏	水道用水供給事業における 料金改定について
		環境省 大臣官房 サイバーセキュリティー・情報化審議官 熊谷　和哉 氏	水道事業の現在位置と将来 第四世代の創生へ
	2月17日(月) 東京都 (web開催)	国土交通省 水管理・国土保全局 上下水道審議官グループ 水道事業課長 筒井　誠二 氏	水道行政の最近の動向について
		東京都市大学 建築都市デザイン学部都市工学科 教授 長岡　裕 氏	脱炭素社会に向けて 水道事業に求められる対応と社会的な貢献
中部	11月28日(木) 名古屋市	札幌市水道局 給水部長 住友　寛明 氏	札幌の水道システムと災害対策について
		岐阜大学 工学部 社会基盤工学科 教授 能島　暢呂 氏	能登半島地震における ライフライン被害・復旧の教訓と課題
関西	1月24日(金) 大阪市	一橋大学 国際公共政策大学院 客員教授 土木學會 インフラファイナンス研究 小委員長 安間　匡明 氏	官民連携(PPP)事業における 信頼の設計
		岐阜大学 工学部 社会基盤工学科 教授 能島　暢呂 氏	能登半島地震における ライフライン被害・復旧の教訓と課題
	10月30日(水) 和歌山市	金沢大学 名誉教授 宮島　昌克 氏	2024年能登半島地震における 水道被害とその教訓
		日本水道協会 総務課 課長補佐 (総合調整係長) 二宗　史憲 氏	水道における災害対応 ～能登半島地震における対応を踏まえて～
関西・ 中国四国 共催	9月3日(火) 松山市	金沢大学 名誉教授 宮島　昌克 氏	2024年能登半島地震における 水道被害とその教訓
		千葉県企業局 水道部 次長 密本　恒之 氏	千葉県企業局における災害対応 ～東日本大震災での被災経験から 能登半島地震への応援活動まで～

横浜会場（12月6日開催）会場155名が参加

山梨県富士山科学研究所 所長
藤井　敏嗣 氏

兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 教授
阪本　真由美 氏

会場風景

静岡会場（1月23日開催）会場33名が参加

埼玉県企業局 水道企画課 副課長
片岡　広成 氏

環境省 大臣官房 サイバーセキュリティー・情報化審議官
熊谷　和哉 氏

会場風景

東京会場（2月17日開催）オンライン配信で228団体が参加

国土交通省 水管理・国土保全局 上下水道審議官グループ 水道事業課長
筒井　誠二 氏

東京都市大学 建築都市デザイン学部都市工学科 教授
長岡　裕 氏

会場風景

名古屋会場（11月28日開催）会場73名が参加

札幌市水道局 給水部長
住友　寛明 氏

岐阜大学 工学部 社会基盤工学科 教授
能島　暢呂 氏

会場風景

大阪会場（1月24日開催）会場136名が参加

一橋大学 国際公共政策大学院 客員教授 土木學會 インフラファイナンス研究 小委員長
安間　匡明 氏

岐阜大学 工学部 社会基盤工学科 教授
能島　暢呂 氏

会場風景

和歌山会場（10月30日開催）会場77名が参加

金沢大学 名誉教授
宮島　昌克 氏

日本水道協会 総務課 課長補佐（総合調整係長）
二宗　史憲 氏

会場風景

松山会場（9月3日開催）会場81名が参加

金沢大学 名誉教授
宮島　昌克 氏

千葉県企業局 水道部 次長
密本　恒之 氏

会場風景

協会ニュース

2024年度ダクタイル鉄管協会セミナー 一覧表《全16 会場》（一部 web 配信）

支部	開催日・開催場所	講　師	テーマ
中国 四国	11月19日(火) 広島市	名古屋大学減災連携研究センター 准教授 平山　修久 氏	能登半島地震から考える これからの水道の災害対策
		日本水道協会 総務課 課長補佐 (総合調整係長) 二宗　史憲 氏	水道における災害対応 ～日本水道協会における共助の枠組み～
九州	10月28日(月) 福岡市	一橋大学 国際公共政策大学院 客員教授 土木學會 インフラファイナンス研究 小委員長 安間　匡明 氏	官民連携（PPP）事業における 信頼の設計
		横浜市水道局 配水部長 小西　考之 氏	水道料金改定と管路更新
	11月21日(木) 那覇市	筑波大学 システム情報系 教授 庄司　学 氏	巨大地震災害における 水道施設の被害の諸相とレジリエンス ～2024年能登半島地震災害から学ぶべきこと～
		会津若松市上下水道局 主幹 遠藤　利哉 氏	水道インフラへの新技術の活用事例 ～会津若松水道 DX の取組～

広島会場（11 月 19 日開催）会場 118 名が参加

名古屋大学減災連携研究センター 准教授
平山　修久 氏

日本水道協会 総務課 課長補佐(総合調整係長)
二宗　史憲 氏

会場風景

福岡会場（10 月 28 日開催）会場 112 名が参加

一橋大学 国際公共政策大学院 客員教授 土木學會 インフラファイナンス研究 小委員長
安間　匡明 氏

横浜市水道局 配水部長
小西　孝之 氏

会場風景

那覇会場（11 月 21 日開催）会場 43 名が参加

筑波大学 システム情報系 教授
庄司　学 氏

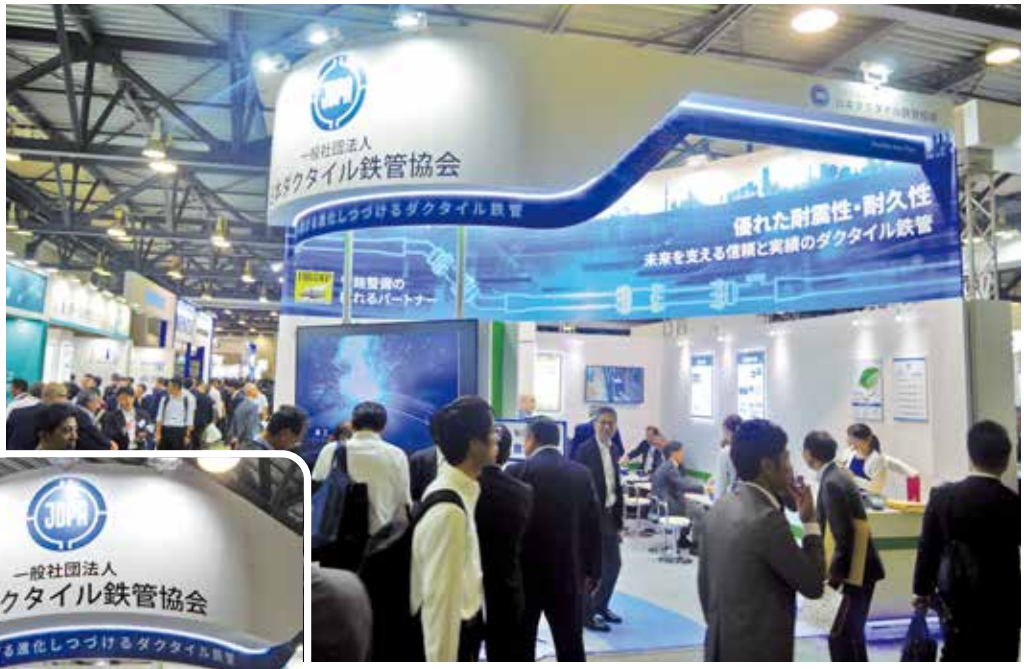
会津若松市上下水道局 主幹
遠藤　利哉 氏

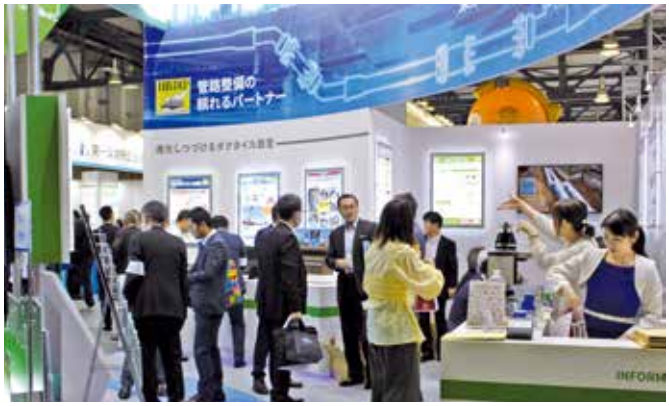
会場風景

神戸水道展に出展しました。

日本ダクタイル鉄管協会では、2024年10月9日～11日まで開催された「2024神戸水道展」において、ブースを出展しました。今回の水道展は来場者が14,836名となり、前回（東京）の来場者数を大きく上回り、大盛況の展示会となりました。

ブースのコンセプトは、開催地である神戸をモチーフに趣向を凝らしたデザインとし、GX形管やS50形管のカットサンプル、耐震手動模型などの実機を展示しました。さらに、パネル展示や大型モニターによる動画放映などで、水道界における課題解決のヒントとなる当協会ならではの取り組みをご紹介し、多くの来場者にダクタイル鉄管をPRすることができました。





協会ニュース

技術資料、施工要領、便覧一覧（2024年4月～2025年3月に更新・追加したもの）

技術資料　総合編

資料名	型番	更新日
ダクタイル鉄管　布設工事標準マニュアル	T01	2024年4月
ダクタイル鉄管管路　設計と施工	T23	2024年4月
ダクタイル鉄管管路のてびき	T26	2024年9月
ICTを活用したダクタイル鉄管管路の施工管理	T100	2025年1月

データはこちら

技術資料　耐震継手設計編

資料名	型番	更新日
GX形ダクタイル鉄管管路の設計	T57	2025年3月
GX形ダクタイル鉄管　呼び径500～1000	T65	2025年3月
NS形・S形ダクタイル鉄管管路の設計	T35	2025年3月

データはこちら

技術資料　特殊工法編

資料名	型番	更新日
ダクタイル鉄管による推進工法	T33	2025年3月

データはこちら

技術資料　農業用水編・下水道編

資料名	型番	更新日
下水道用　ダクタイル鉄管管路のてびき	T46	2024年11月
下水道用　ダクタイル鉄管管路　設計と施工	T30	2024年4月

データはこちら

施工要領

資料名	型番	更新日
NS形ダクタイル鉄管　接合要領書　呼び径75～450	W12	2024年4月
GX形ダクタイル鉄管　接合要領書　呼び径75～450	W16	2025年2月
GX形ダクタイル鉄管　接合要領書　呼び径500～1000	W23	2025年3月

データはこちら

便覧

資料名	型番	更新日
便覧（GX形ダクタイル鋳鉄管（呼び径500～1000））抜粋	―	2024年10月

データはこちら

展示品・パネル貸し出しのご案内

日本ダクタイル鉄管協会では、水道週間や各種イベント等でご利用できる展示物・パネルをご用意しております。水道管路の耐震化、そこに使用されている耐震管について、説明しやすく理解していただきやすい展示物です。みなさまからはご好評いただいており、イベントでのリピート使用も多くなっています。ぜひお気軽にご相談下さい。このランキングは2024年4月から12月末までの集計となります。

2024年度展示品貸出ランキング

展示品編

1 手動模型

貸出し 56回

・地震が起きた時の、耐震管と一般管の違いを説明しやすい。
・便利な宅急便サイズ

サイズ（梱包時）
W760*H660*D350　約 25 キロ

2 GX形φ75 耐震体験管

貸出し 27回

（説明用パネルとイーゼル付き）

・思いっきり引っぱっても抜けない事を体験できる。
・地震等で抜けない事を説明しやすい。

サイズ（梱包時）
W1170*H600*D340　約 70 キロ

3 GX形φ150 カットサンプル

貸出し 23回

・ＧＸ形φ150 の現物を見たり触ったりできる。
・継手の構造を見ることが出来る。

サイズ（梱包時）
W700*H280*D260　約 30 キロ

パネル編

1 耐震継手の特性と地震時の挙動

貸出し 48回

4 立体パネルセット

（一般継手・耐震継手）

貸出し 13回

2 震度７津波・台風・豪雨にも耐えたダクタイル鉄管

貸出し 37回

3 力強くしなやかに！

（GX形吊り上げ）

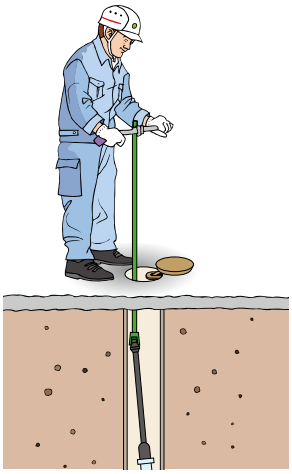
貸出し 33回

5 地震に強いダクタイル鉄管

（NS形吊り上げ）

貸出し 12回

HINODE



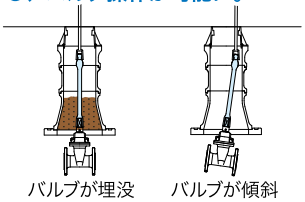
バルブ操作をより確実にする

傾斜対応継ぎ足し棒　BPR

BPR（ボールポイントロッド）は先端にボールポイント構造を採用。バルブが埋没している場合や傾いている場合でも、緊急時や維持管理の場面において、バルブ操作を確実に且つ容易に行うことができます。

ボールポイント構造

バルブが埋まっていても斜めでも、バルブ操作が可能に。



バルブが埋没　バルブが傾斜

日之出水道機器株式会社　本　社／福岡市博多区堅粕5-8-18（ヒノデビルディング）　Tel（092）476-0777
https://hinodesuido.co.jp

遠山鐵工所オリジナル　TOHYAMA TIFアダプター

水圧による離脱なし！ 曲げも伸縮も自在！

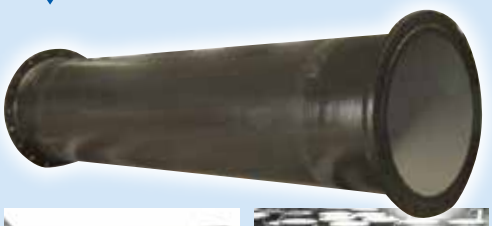
高水圧に耐える止水性能　±20～40mmの伸縮性能　容易な施工時の取り付け

ダクタイル鋳鉄製高性能フランジアダプター　口径75～2600mm　WEBカタログ

株式会社 遠山鐵工所　〒346-0101埼玉県久喜市菖蒲町昭和沼18番地（久喜菖蒲工業団地内）
TEL 0480-85-2111　https://www.kk-tohyama.co.jp

浄水場・配水池・水処理センターの建設、更新に

㊇マークのフランジ形異形管



豊富な管種、安定した品質、確実な納期で九州鋳鉄管の製品は日本全国で活躍しています。

㊇ 九州鋳鉄管株式会社

http://www.kyuchu.co.jp

本　　社：福岡県直方市大字上新入1660-9　　TEL 0949-24-1313
東京支店：東京都千代田区内神田2-7-12 第一電建ビル401号　TEL 03-3525-4551

ホームページで便覧がダウンロードできるようになりました。

そのほか、各種技術資料もダウンロードできます。

（一社）日本ダクタイル鉄管協会

編集後記

●巻頭言は、「上下水道の耐震対策に向けて」と題して、国土交通省国土技術政策総合研究所の三宮上下水道部長に執筆いただきました。

●座談会では「能登半島地震の被害について～災害復旧受援支援の今後の課題について～」と題して金沢大学の宮島名誉教授を座長として珠洲市環境建設課の大宮課長、松川課長補佐、眞鍋専門員、支援側から名古屋市上下水道局の根門部長、多和田北部管路センター長の6名の方々に議論いただきました。能登半島地震からは1年以上が経過しましたが、あらためて宮島先生からは能登半島地震は、30年前の兵庫県南部地震の揺れの9倍であることを強調され、またライフライン復旧隊(仮称)のご提案をいただきました。元旦の午後4時に発災したにも関わらず、名古屋市からは約3時間後の午後7時30分には石川県に向けて先遣調査隊が派遣されました。名古屋市では2004年の中越地震の際の教訓を踏まえて、4月の年度初めに災害時の先遣調査隊、応急給水・応急復旧を行う職員(約10名)を登録制とされており、初動体制を強化されています。その先遣調査隊で派遣された眞鍋様は現在(令和7年3月時点)も珠洲市に中長期の派遣職員として従事されています。被災地の立場で大宮課長、松川課長補佐からも貴重なご意見をいただきました。

●「この人に聞く」では、会津若松市の小林上下水道事業管理者にインタビューしました。無口で物静かで目立たない存在であると管理者は謙虚に話されていましたが、次世代に期待することをお聞きした時には熱い想いを語られました。また、お父様とお祖父様から「事にあたるには、真摯に誠実であれ」の精神を教えらえられたとの言葉通り、インタビュー中も真面目で誠実な人柄を感じることができました。

●技術レポートは3本、開発に伴う新設工事やバックアップ機能の強化を図るループ化等のレポートとなっています。多くの上下水道事業体で、老朽管の更新は喫緊の課題となっていますので、ぜひご一読ください。

●事業体だよりでは、10の事業体から様々な取り組みの原稿執筆をいただきました。他事業体にも参考にできる広報PRも数多くあるかと思われますので、参考にしていただければ幸いです。

ダクタイル鉄管第116号〈非売品〉　2025年4月15日発行

編集兼発行人　田　村　聡　志

発　行　所　一般社団法人
日本ダクタイル鉄管協会
(https://www.jdpa.gr.jp)

本部・関東支部　〒102-0074　東京都千代田区九段南4丁目8番9号(日本水道会館)
電話03(3264)6655(代)　FAX03(3264)5075
関西支部　〒542-0081　大阪市中央区南船場4丁目12番12号(ニッセイ心斎橋ウェスト)
電話06(6245)0401　FAX06(6245)0300
北海道支部　〒060-0002　札幌市中央区北2条西2丁目41番地(札幌2・2ビル)
電話011(251)8710　FAX011(522)5310
東北支部　〒980-0014　仙台市青葉区本町2丁目5番1号(NL仙台広瀬通ビル)
電話022(261)0462　FAX022(399)6590
中部支部　〒450-0002　名古屋市中村区名駅3丁目22番8号(大東海ビル)
電話052(561)3075　FAX052(433)8338
中国四国支部　〒730-0032　広島市中区立町2番23号(野村不動産広島ビル8階)
電話082(545)3596　FAX082(545)3586
九州支部　〒810-0001　福岡市中央区天神2丁目14番2号(福岡証券ビル)
電話092(771)8928　FAX092(406)2256

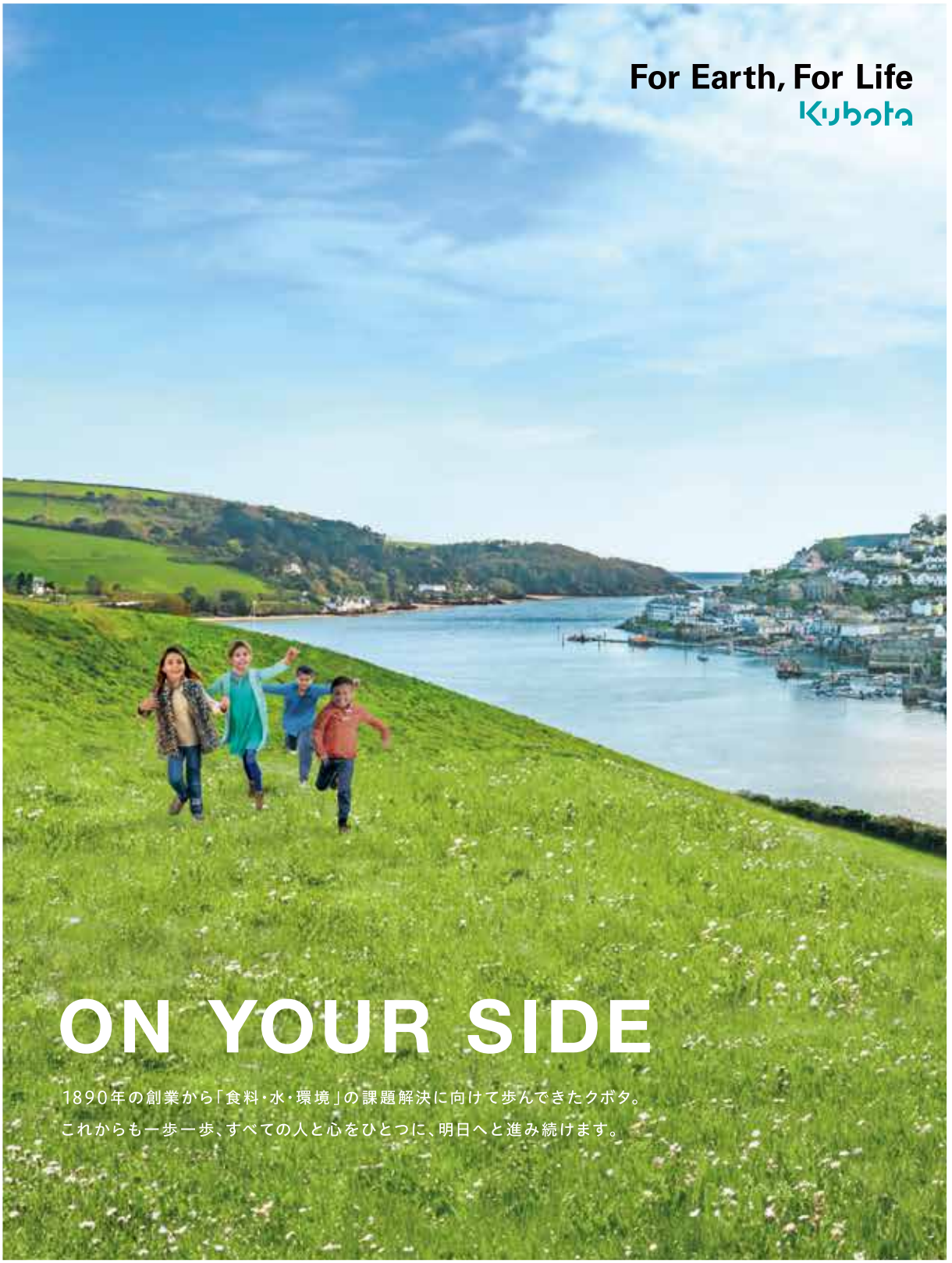
水をつなぐ、
しあわせをつむぐ

安心できる水と暮らしている人のために、
その水をつなぐために努力する全ての人と共に、
日本鋳鉄管は、技術と知識で
安心できる暮らしと構造を実装します。

日本鋳鉄管株式会社

本　　社｜〒104-0045 東京都中央区築地1-12-22 コンワビル ☎ 03-3546-7675
久喜工場｜〒346-0193 埼玉県久喜市菖蒲町昭和沼一番地　☎ 0480-85-1101
支　　社｜北海道支社、東北支社、中部支社、九州支社

www.nichu.co.jp



EXPO 2025
株式会社クボタは、大阪・関西万博
未来社会ショーケースのプラチナパートナーです。
©Expo 2025

株式会社クボタ